© HIRONOBU KAN

東アジア島嶼沿岸域における広領域学際研究

古くから人々が住む東アジアの島々。生物が造る地形－サンゴ礁－が沿岸を縁どる。その自然環境はどのように成立してきたのか，その中で人々はどのような文化をはぐくんできたのか，そして現在の環境変化や地域開発はそれらをどのように変容させようとしているのか。学際研究からこれらの問題に迫る。

日時：　1月23日（土）13:00～17:30　シンポジウム 第１部
　　1月24日（日）　9:00～13:00　シンポジウム 第２部
会場：　九州大学西新プラザ大会議室

【シンポジウム 第１部】 1月23日（土）13:00－17:30

1．UAV（ドローン）でつくる琉球列島サンゴ礁域の精密地形図（国士舘大学・長谷川 均）
2．マルチビーム測深でつくる精密海底地形図とその上で展開する学際研究（九州大学・菅　浩伸）
3．石垣島名蔵湾におけるサンゴ群集の多様性と鉛直分布構造（琉球大学・Frederic Sinniger，波利井佐紀）
4．氷期一間氷期の海水準変動：そのタイミングと規模（東京大学・横山祐典）
5．東日本大震災の教訓を踏まえた島嶼沿岸域での津波研究と防災対策（東北大学・後藤和久）
6．サンゴ礁ガレ場の環境特性と生物相について（沖縄県立芸術大学・藤田喜久）
7．海人の文化ーサンゴ礁の民俗分類・地名・漁撈活動（琉球大学・渡久地 健）
8．琉球列島・サンゴ礁域の水中文化遺産：マルチビームによる遺跡の可視化
　（沖縄県立博物館美術館・片桐千亜紀，東海大学・小野林太郎，九州大学・菅　浩伸）
9．先史時代のヒトと島嶼環境：奄美・沖縄諸島を中心に（鹿児島大学・高宮広土）

【シンポジウム 第２部】 1月24日（日）9:00－13:00

10．石垣島名蔵湾の多点水質計測（産業技術総合研究所・長尾正之）
11．鍾乳洞の形成と海中鍾乳洞（大阪経法大学/九州大学・浦田健作）
12．琉球列島の洞窟および海中鍾乳洞の生物相について（沖縄県立芸術大学・藤田喜久）
13．サンゴ礁域の有孔虫：生態・堆積物生産・古環境解析（琉球大学・藤田和彦）
14．サンゴ礁保全をめぐる最近の動向（国士舘大学・中井達郎）
15．アジア・オセアニア海域における人類の海洋適応：更新世～完新世期の事例より（東海大学・小野林太郎）
16．「ゆいむん」の思想からみた南の島々の自然観（奈良大学・堀　信行）

シンポジウム終了後，研究会（14:00～17:00）を開催します。

ISGS
九州大学大学院　地球社会統合科学府
（H27年度　九州大学比較社会文化研究院　院長裁量経費 シンポジウム）
共催）第9回多良間研究会（サンゴ礁地域研究会）
共催）H27年度 科研費　基盤研究A　課題番号25242026　「マルチビーム測深技術を用いた浅海底地形学の開拓と防災・環境科学への応用」（研究代表者：菅　浩伸）研究集会